

**基本目標 2 男女が共に自立して安心・安全に暮らせるまちの実現**  
**主要施策 1 安心・安全な暮らしの推進・主要施策 3 配偶者やパートナー間におけるあらゆる暴力の根絶**

対象事業	現状・課題	意見	理想像
事業番号 19 男女共同参画の視点を取り入れた防災計画・マニュアルの整備／男女共同参画の視点を取り入れた防災訓練の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いつ発生するか分からないため、災害に対して、住民の危機感がない。</li> </ul>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大雨や台風の際に、避難所開設の知らせはあるが、避難所の仕組みや責任者、携行品等が分からない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緊急時に備えて、避難所について必要な場を積極的に広報する必要がある。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難所にはパーテーションや防災マットなどは置いているが、毛布などその他必要なものは、避難者で持参することになっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毛布なども避難所に置いておき、提供できるようにするべきではないか。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難所の開設が長期になる場合、対応する職員の入れ替えもあり得る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難所に従事する職員に向けて、研修があるとよい。</li> <li>・一人で避難できない人や、外国人への支援についても課題がある。</li> <li>・実際に被災地に派遣された職員の話などを聞く機会があれば良い。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・非常用のトイレについては、避難所となるまちづくり推進センターに配置されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・男女で、壁などで仕切るなどして、使いやすくなるような工夫が必要。</li> <li>・トイレをなるべく使わないようにする使い方があるため、その使い方を周知する必要がある。また、実際に使ってみる機会があると良い。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生理用品などは、まちづくり推進センターの備蓄庫に保管されており、必要に応じて配布できるようになっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難所が開設された際は、生理用品に限らず、防犯の観点から、明るく人目につきやすい場所に配置する必要がある。</li> </ul>	
事業番号 44 相談窓口の周知／庁内相談担当者間の連携強化／被害者の安全と安心の確保／相談のワンストップ化の推進／被害者の特性に応じた相談体制の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>・DVの相談は、被害者が自分から言い出すのが難しい場合も多い。また、どこに相談してよいか迷う人も多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・周囲の人が通報できるように、市役所や警察など、窓口の周知を進める必要がある。</li> <li>・プロスポーツチームに協力を得て周知ができれば、より効果が上がるのではないか。</li> </ul>	

<p>事業番号 4 4 相談窓口の周知／庁内相談担当者間の連携強化／被害者の安全と安心の確保／相談のワンストップ化の推進／被害者の特性に応じた相談体制の確立</p>		<ul style="list-style-type: none"><li>・相談に対して、初動が遅くならないように、できるだけワンストップで対応ができるような仕組み作りが必要なのではないか。</li><li>・SNS を用いて相談できる窓口があれば、相談しやすくなる。</li><li>・子どもがいると相談しにくくなる、という課題もある。</li></ul>	
--	--	--	--